



NO.469

R8年9月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

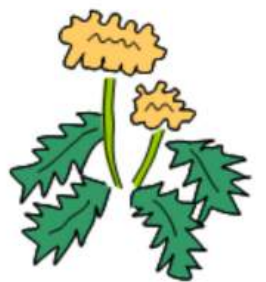
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「震災を超える強さを…」

施設長 木下 昭二

7月28日午後4時27分に発生した令和8年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。突然の激しい揺れとそれに関連する商業施設の爆発等により、尊い命が奪われ、今もなお不安と困難の中で過ごされている方々の胸中を思うと、言葉にならない痛みを覚えます。

当施設がある大津町でも震度6弱の強い揺れを感じ、一瞬にして十年前の恐怖が蘇りました。その後もたびたび続く余震に、利用者さんと共に落ち着かない日々を過ごしております。併せて、千葉県で発生した豪雨災害で被害を受けられた皆様にも、深い悲しみと共に悔やみを申し上げます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、ご遺族の皆様にも心より

哀悼の意を表します。

今回の熊本の震災に際しても、全国各地の施設関係者の皆様から温かい励ましや心配のお言葉を頂きました。遠く離れた地から寄せられるメッセージは、私たちにとって何よりの支えとなり、その1つ1つの言葉に胸が熱くなるほどの力を与えてもらっています。改めて深く感謝申し上げます。

被災された皆様におかれましては、今なお不自由な生活を余儀なくされ、電気・水道・ガスなどのライフラインの復旧も思うように進まず、連日続く猛暑の中での避難生活は想像を超えるご苦労があることだと拝察します。炎天下での家屋の片付けも思うように進まず、心身ともに疲労が蓄積されていることと思います。状況が許す範囲内で少しずつでも身体を休めながら、無理のない中で身の回りの片付

けをしていただきたいと願っています。

今回の令和8年熊本地震に対して、私たちは決して油断してはいたわけではありません。しかし、十年という比較的短い周期で二度三度の大きな地震に見舞われた事実は、県民に深い辛さと重い現実を突きつけています。

私たち三気の里も、当時の記憶が鮮明に残る中で今回の揺れを経験し、その恐怖は決して軽いものではありませんでした。しかし、比較することは安易には出来ませんが十年前の経験があったからこそ、同じく地震に動揺されているのですが、今回の揺れを利用者さんたちは冷静に受け止められておられたように感じました。(あくまでも私個人の肌感覚としてですが…)

そのような中、阪神甲子園球場で行われた第108回全国高校野球選手権大会では、熊本県

代表として出場し、再三の逆転に次ぐ逆転で力強く勝ち進んだ有明高校の選手たちの姿が、災禍にある熊本県民に大きな勇気と元氣、そして逞しさを与えてくれました。困難な状況下でも前を向き、全力で挑む若い力は、被災地に希望の光を届けてくれました。

また身近なところで、利用者さんのご家族様に甚大な被害がありました。微力ながらスタッフで手分けして数日後には支援物資を届けました。災害支援として出来ることには限りがありますが、本来の私たちの役割である利用者さんのことは、「施設でしっかりと見ていますので、心配なさらずに安心してください」とご家族様にお伝えしました。この困難な状況をご家族と施設が協力して、共に乗り越えていければと願っています。





1班 「地震が起きた、そのあと」

7月28日、大津町で震度6弱の地震が発生しました。グラグラと揺れ始め、数秒後には携帯から緊急地震速報が鳴りました。当時は利用者さんの入浴時間帯で、多くの方がプレイルームに集まっていました。数名の利用者さんは不安そうな様子も見られましたが、ほとんどの方がスタッフの声掛けに沿って行動し、落ち着いて揺れが収まるまで待機することができました。10年前の熊本地震を経験していたこともあり、皆さんが冷静に行動してくださり、怪我もなく安心しました。地震後も普段どおりの生活を送っていますが、小さな揺れや物音にドキッとすることがあります。7月31日には1班イベントで31アイスを食べ、ドライブにも出かけました。利用者さんの笑顔が見られ、私たちもほっとした時間となりました。地震のあとだからこそ、皆さんが元気に日常を過ごせていることのありがたさを改めて感じています。

生活支援員 宮岡 春菜

2班 「挑戦すること」

今年度から2班の所属になりました。入社して7年目にして、初めて班の異動を経験しました。楽しみ半分、不安半分の気持ちで4月1日、2班利用者さんに挨拶をしました。あれからあっという間に5か月が過ぎ、レクリエーションや外出など色んな経験をする中で利用者さんとたくさん話し、たくさん笑い、楽しみを共有できていると思う瞬間があります。この仕事を選んでよかったと感じる瞬間です。日々の生活に安定や安心感はとても大切ですが、少しの変化や挑戦が人を成長させてくれるのだと思います。まだまだ、班で共有したい楽しみが頭の中にたくさんあります。頭の中のイメージを形にし、班の利用者さんはもちろんですが、班のスタッフも一緒になって笑い合えるような1年にしたいと思います。

生活支援員 小林 奈央

3班 「時間は有限。話は無限。」

私事ですが、今年、初めての班移動を経験し、作業や班の雰囲気戸惑いながらも、奮闘する日々を送っています。以前は高齢班に所属しており、両親が亡くなっていたり、帰宅がなかったりと、身内の方と会う機会のない方がほとんどでしたが、新しい班では帰宅される方が多く、ご家族の方とも頻繁に連絡を取らせて頂いています。

ふと、私が学生の頃、三気の里に見学に来た日の事を思い出しました。その日、事務所の前でご家族から「三気の里はいいところよ！」そんな言葉を頂きました。“ご家族からそんな風に思ってもらえるなんてどんなに素敵な所なんだろう”その言葉がずっと頭に残っていて、私は三気の里で働くことを決意しました。見えない生活の中で、感染症や地震など、何かあった時ご家族の方はとても心配になられると思います。そんな不安を受け止め「少しでも任せてよかった」と思っていただけのように、沢山話をして、聞いていきたいです。また、親亡き後も、利用者さんが安心して過ごせる環境や頼れる人でいられるよう、聞かせて頂いた話や、思いを繋げていけたらいいなと思います。

生活支援員 植野 希

4班 「4班利用者の自己実現を目指す。」

4班の方々は年齢も高く心身の状況を細かに配慮する人もいますが、個々の発信を細かに受け取って支援につなげることが大事だと思います。歩行活動で視覚的に分かりやすくする（カードやマグネットで確認し、距離を示すアプリなどを使用し確認する）事で「そこまでは頑張る。」と見通しが立ち意欲につながっています。スタッフに見せて自分の頑張りを認められることで次の活動の意欲につながることも多いです。食事場面では本人の能力や安全性、身体状況、食事状況などを理解し視覚的に、聴覚的に適した支援をしているのか、さらに室内の温度は適切か、メニューに対する嗜好はどうかなど細かに考えて提供することが大事だと思っています。支援者は自己実現を叶えるための大事な人的資源であり、人にとって優しくそして関わりたいと思ってもらえる支援であるかを考え、声なき声を大事にした支援を目指したいと思っています。

生活支援員 崎山 武志



BeTREE 「はじめまして」

BeTREEに入職して、早いもので一年が経ちました。入職した頃は、初めてのことばかりで、日々の仕事を覚えることに精一杯だったように思います。

この一年、利用者の皆さんと一緒に仕事をする中で、一人ひとり得意なことや苦手なこと、仕事への取り組み方もそれぞれ違うことを知りました。どのような声かけや関わりが良いのか悩むこともありましたが、毎日の積み重ねの中で、少しずつ分かることも増えてきました。

また、BeTREEの店舗や販売に携わり、お客様との関わりや地域とのつながりを身近に感じる機会もたくさんありました。

振り返ると、あっという間の一年でしたが、周りの方々に教えていただきながら多くの経験をすることができました。まだまだ学ぶことはたくさんありますが、二年目も一つひとつの経験を大切にしながら、成長していきたいと思っています。

生活支援員 岩本 静穂

陣内食堂

先日、当法人にて「陣内食堂」を開催しました。当日はたくさん子どもたちが参加し、みんなで楽しく食事をしたり、交流したりと、笑顔あふれる時間を過ごすことができました。

ご寄付、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。今後も地域の皆様に喜んで頂ける活動を大切にしながら、取り組んでいきたいと思えます。

田淵 晃一

【寄付】

- ・西田健一様 とうもろこし
 - ・吉山一男様 とうもろこし
 - ・渡辺芳子様 ジュース
 - ・宮本紀久男様 スイカ
 - ・砂野光代様 ピーマン
 - ・宮本喜代美様 玉ねぎ
 - ・山中美智代様 玉ねぎ
- 【フードバンク】
- ・シヨージア
 - ・アサツシュ
 - ・ポケモンランチプレート

【ボランティア】

- ・木原様
- ・有馬様
- ・川田様



業務課長便り

「マネジメント」

事業課長・サービス管理責任者

今池 一成

就労支援事業に携わり今年で9年目を迎えます。それまでは施設入所支援や生活介護に10年以上携わり、グループホームや地域活動支援センター事業も担当してきました。経験を重ねる中で、担う職種や役職も変化し



てきました。それに伴い、求められる役割や解決すべき課題も変化してきました。

“誰かの困りことは、他の誰かの困りこともかもしれない”

他法人の職員から聞いたこの言葉は、現在の自分の仕事のあり方を表していると感じました。私が今困っていることや解決したい業務上の課題は、他の職員も言わない（言えない）だけで、きっと困っているのではないかな。

このような視点を持つて、さまざまな業務を俯瞰し、お節介かもしれないが、首を突っ込んで一緒に考え、解決への道筋を視える化することが、現在の役職としての立ち振る舞いだと思えるようになりました。

人が人を支援する福祉の現場だからこそ、まず職員一人ひとりが安心して働けることが大切です。職員が力を発揮できる仕組みをつくること、各事業や職員をつなぐハブとして機能すること、今はこうした役割に注力し、一人でも多くの職員が輝く土壌を作ることができるようになりたいと思います。

療育雑記

「個よりもチーム力」

主任 松村雄一

当時、私が入職して6年目の時に担当として関わっていたAさんについての話をしたいと思います。

Aさんは当時から現在に掛けて、自宅から通所で三気の里の生活介護を利用しています。利用当初は作業室に入ることができ、本人なりに作業を頑張っていました。しかし、周囲の利用者の存在や騒々しさが要因となり、毎日癇癢やパニックを起こすようになりました。そこで、緊急的に班会議を設け今後について話し合いました。結果、個別の空間で活動することに決まりました。次に本人の今後の目標として、当時の個別支援計画書に挙がっていた「周囲からの関わりを受け入れられるようになるって欲しい」というニーズに着目しました。個別の空間になることで周囲からの刺激は軽減

しましたが、他者の介入を苦手とするAさんにとって、関わりを受け入れるという課題は大きなハードルです。具体的には、Aさんが取り組んだ作業（車の部品・プラスチックにパッキン装着）が不十分であった場合、もう一度やり直してもらうこと、完成度を高める為に補助具を使用してもらうことなどです。実際、作業場面だけでの関わりでは上手く行かず、関わり↓癇癢、パニックの繰り返しでした。再度、班会議を設け、Aさんの強みである運動を日課に取り入れることになりました。運動を行う時間帯は、登園してすぐの時間に設定しました。なぜ、登園してすぐに運動を行うのかというと、登園した直後の状態として、身体や思考が作業にスムーズに取り組める状態ではなく、周囲からの声掛けにも応じることに難しい状態にあったからです。運動することで、日によって30分以上要することもありましたが、日課の説明、作業

内容の説明など、スタッフから話を聞き入れる様子が見られ

始めました。運動後の作業では、取り掛かりがスムーズになり、取り組んだ作業が不十分な際もスタッフの声かけを受け入れる様子が見られ始めました。また、癇癢を起こすことがあっても自ら短時間で切り替わることができるようになってきました。

このAさんの成長を支えた背景には、スタッフの連携があります。幾度となく重ねてきた会議では、主にAさんに関わるスタッフだけでなく、普段関わりの少ないスタッフも巻き込んで客観的な意見も取り入れてきました。

次のステップとして、集団が活動する作業室に入室し刺激がある中でも作業に取り組むということです（チャレンジ）。取り組み当初は、10分からスタートしました。回を重ねることで最大で30分間、作業室内で作業に取り組むことができるようになりました。この取り組みから数ヶ月が経過したある日のこと、驚くことが起きました。それは、今まで苦手としてきた作業室内にAさん自ら進んで入ったこと

です。先輩スタッフから、「これまで嫌な経験を積み重ねてきた作業室が、今回の取り組みを通して成功体験を積み重ねてきたことで、安心感が不安感に勝り、このようなことが起きたのではないか」と言っていたのを鮮明に覚えています。当時の私はこの時に、断続的である個の力よりも継続できるチーム力が大事なのだと学ぶことができました。

10年以上が経過した今でも当時の経験を活かしながら、利用者の皆さんに対して、まずは良いチームを組んで生活の中でいかに成功体験を積み重ねることができるかと思案錯誤している毎日です。



9月スケジュール

03(木) ドーナツの日・ゴールドクラブ
 04(木) BeTreeレク
 10(木) 3班レク
 12(土) 三気の里家族会・芸術クラブ
 17(木) 嘱託医来診
 18(金) リハの日・強度行動障害支援者
 研修(基礎)2日目
 24(木) 4班レク・5班レク

26(土) eスポーツの日・BeTreeマルシェ
 イベント食
 29(火) ブラッシングの日
 30(土) 音楽の日
 毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週水曜日 BeTREE役場販売
 BeTREE
 <営業時間>9:30~17:30



沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【寄付物品】

島津眞一様 高村茂子様
 赤星央子様 児玉静子様
 前田眞澄様 千田みゆき様
 荒毛温様 ヤマモト住建様
 藤本栄之助様
 レモンガスクまもと様
 リニエルサプライ様
 よつば調剤薬局様
 ダイハツ大津様
 宇都宮建設様
 わらびかみ様

【後援会ありがとうございます】

金森保様
 東坂富士代様
 森川マサミ様



編集後記

9月といえばいろいろと思い浮かびますが、今回は「月見」に注目してみたいと思います。

月見の風習はもともと中国から伝わった「中秋節」が始まりとされています。平安時代の貴族たちの間で広まり、月を眺めながらお酒を楽しんだり、和歌を詠んだりしていたそうです。その後、庶民にも広まり、秋の収穫に感謝する意味も加わりました。十五夜にススキを飾り、月に見立てたお団子や秋に収穫された農作物をお供えするようになったそうです。

昔の人は風情を楽しみながら月を眺めていたみたいですが、私は風情より「お酒、美味しいな」としかならない気がします。忙しい毎日の中では、夜空をゆっくり眺める機会もなかなかありませんが、たまには少し立ち止まって月を眺めてみるのもいいかもしれません。

田淵 晃一